

居住者の健康を中心とした これからの建築環境の考え方

超高齢化社会の到来に伴い、我が国が今後も持続して安定した社会、経済を維持するためには、長寿社会を支える、これまで以上に健康で良好な建築環境の整備が求められます。これからの建築とその環境のあるべき姿について、いま考え行動することが必要になっています。

本講座では、健康で快適な建築づくりを進めるための考え方や新たな建築環境の視点などについて解説致します。

2018年

12月15日 土 10:30-16:10

場 所：東北大学青葉山キャンパス 人間環境系教育研究棟【102教室】
地下鉄東西線「青葉山駅」徒歩5分
仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-06

定 員：30名（申し込み順）

受講料：3,000円（資料代含む）

10:30～12:00

「東北の住宅環境の変遷と
これからの住まい」

講師：吉野 博（東北大学 名誉教授）



13:00～14:30

「室内マイクロバイオームに見る
人の健康」

講師：加藤 信介（東京大学 名誉教授）



14:40～16:10

「健康と知的生産性」

講師：後藤 伴延（東北大学 准教授）



申込み：QRコード・URLよりお申込みのご確認をお願いします。

U R L：<http://u0u0.net/MRK6>

問合せ：TEL: 022-795-5820 E-mail: eng-koukai@grp.tohoku.ac.jp

主催：東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻

後援：住まいと環境 東北フォーラム

日本建築学会東北支部 環境工学部会



居住者の健康を中心としたこれからの建築環境の考え方

講演の概要

「東北の住宅環境の変遷とこれからの住まい」

講師：吉野 博 (東北大学 名誉教授)



二酸化炭素排出用の削減のために、我が国では2020年には建物省エネ基準がすべての建築物に対して義務化される予定であり、また、ゼロエネルギー住宅が標準的な住宅で実現されることが目標となっている。しかしながら東北地域の新築住宅の熱的性能はかなり向上してきているものの、一般的には決して満足のできる状況には至っていない。省エネで健康・快適な住宅の実現は、喫緊の課題である。

講座では、これまでの東北の住宅環境の変遷を明らかにした上で、高齢社会における今後の住まいのあり方に関して議論する。

「室内マイクロバイームに見る人の健康」

講師：加藤 信介 (東京大学 名誉教授)



細菌などの微生物(マイクロバイオ)は、室内や土中など様々な環境の中で単独で存在するわけではなく微生物集団として、叢(オーム)をなして存在している。

遺伝子解析技術の進歩で、従来、培養、検出が難しかった細菌やウイルスも微生物叢としてまとめて遺伝子解析し、病原性の種も含めどのような種が、どの程度存在しているか、容易に知れるようになった。

室内環境中の微生物叢の属性や移動などの性状を詳しく解析し、これを室内での感染症の拡大防止に生かす研究が進められている。

「健康と知的生産性」

講師：後藤 伴延 (東北大学 准教授)



高齢化の進展に伴い、熱中症やヒートショックによる死亡者数の増加が報告されている。

本講義では、このような温熱環境による健康被害発生の実態や発生メカニズム、高齢者の温熱感覚や体温調節能力などについて議論する。また、近年の労働人口減少や産業構造の変化によって、執務者の知的生産性に注目が集まっているが、これと室内環境との関係についても議論する。

